

## 兒童の個性及其取扱法

文學士 松本孝次郎

今回は感情に關係致しました二三の主なる個性に就てお話を致します。丁度前回迄お話し致しましたのは、智力の方が主になつて居る個性のことをお話ししたのでありますが、今度は感情に付ての主なる個性を二つ三つ擧げてお話しやうと思ひます。普通多く見ますのが臆病なる所の兒童、總て賢い方の子供と云ふものは、概して申しますと早くから多少恐れると云ふやうな性質を有つて居るものであります。鈍い方の子供よりは賢い子供の方が早くから恐れると云ふ方の傾きを持ちます。さうして目で以て見た物よりも却て耳で以て聞く所の音に向つて早く恐れを現はす傾きがあります。物の音に驚くと云ふやうな事は早くから現はれて居るです。併し賢い子供は若し自分が自ら笛を吹くとか或は太鼓を叩くとか云ふやうな風に、自身で以て或る場合に音を出して見ると云ふこと

が出来たりやうになりますと云ふとそれから物の音がと云ふものも餘り驚かなくなつて來るです。自分原因となつて力を出してさうして音を出すことが出来るると云ふやうになれば、却て音を怡ぶと云ふ興味を起すやうになつて來るものである。音に續きましては目で見た物を驚くと云ふ性質を起すものであります。それは餘程大きな物を見て恐れるとか、或は形が普通見た物と變つた物があればそれを恐れるとか云ふやうな、さう云ふやうな性質が早く現はれて來るです。併し是れも通常の場合でありますと云ふと、始まりはさう云ふやうな物を見て恐れて居りますけれども、其内に好奇心と云ふものが子供に起つて來るものです。此好奇心と云ふものは子供には殆ど天然自然に備はつて居ると言ふても宜い位に早くからある所のもので大人の場面で申しますれば研究心とでも言ふべきものなのです。大人で言つて見ると、何か變つた珍しい物を見ればそれを一つ研究して見やうと云ふやうな心が起る。それが子供の場合には好奇心と云ふものであるのです。どうしても智力

の發達して居る者は好奇心に富んで居る。智力の乏しい子供は好奇心が少いと云ふ譯でありませう。此好奇心に助けられまして、始まりは怖がったやうな物も自分から氣を付けて之を見やうと云ふやうな心が子供に起つて來るのです。それで此心が起つて氣を付けて見ると云ふやうになれば、其處に自然に面白味或は愉快と云ふものも出て來る譯である。子供が怖い物でも見る。俗に怖い物見たさと言ひますが、それはどうかと云ふと詰り此好奇心に助けられた結果である。斯う云ふ譯でありませうからして、若し智力が普通の發達を致しまする子供でありませうならば、一時は恐れると云ふ状態を持つて居る者でも、永く之を恐れると云ふやうな状態にはならないのです。然るに臆病と云ふやうになりましたのは、是れはもう恐れると云ふ心が極端に發達して仕舞つたもので、始まりに子供が怖がると云ふ性質があるのは自然的であるけれども、何事でも万事に付て臆病であると云ふやうになりませうのは、最早不自然的の有様であると云はなければならぬのです。能く世間の母親

の中には、自分の子供が兎角物事に吃驚するやうな事があつたり、或は怖がることがあつたりすると言ふて心配をされる方がありますが、それは強ち心配するには及ばない、唯ださう云ふ場合に於て神經の過敏な性質の者でありますと云ふと、隨分之に伴つて神經上危険な事がありますからして注意して育てると云ふことは必要でありますけれども、唯だ物事に驚くと云ふ位のことではそれ程心配するには及ばぬので、それは普通の子供ならば暫く經つと段々に直つて行くので、却て子供が賢い方の場合に於てさう云ふやうな性質を見るのであります。そこで其子供を育つて行くのに、其怖がる所の物を一時に急に怖がらせないやうにすると云ふ方法を探るのは無論誤つて居るのです。能く人が言ふのに、若し大將怖がるのならばそれを怖がらないやうにする爲めに却て其爲を見せてやつた方が宜からう斯う云ふやうな考を持つて居る人もありますけれども、急激に之を怖がらないやうにする方法を探ると云ふことは、幼稚な子供には少しく無理であります、意思の大分に發達致

しました子供、例へば小學校時代の子供でありま  
すと云ふと、其怖く無いと云ふ事の理由を能く説  
いて其品物を見せれば、却つて之を怖がらないやう  
になると云ふことがありますけれども、まだ家庭  
時代或は幼稚園時代の子供では急に之を直すこと  
は六ヶ敷いからして、先づ追々と智識を養つて行  
き、さうして折々さう云ふやうな怖がる物に接近  
させて慣れしむると云ふやうな方法を探つて、順  
次に其成功を期すると云ふやうな考で行かなけれ  
ばならぬのです。若し子供が昆蟲類杯を怖がるや  
うな場合に於ては、傍らからして其昆蟲と云ふも  
のに付て美と云ふものを感じしめる方法、例へば  
繪の中に美しく描き現されて居る所の昆蟲なるも  
のをば見せて、其昆蟲の自然的美と云ふやうなも  
のを感じしめるとか、又は昆蟲に付て動物學上の  
理科的の説明を簡短にして、さうしてさう恐ろし  
いもので無いと云ふことを説明致しましたならば  
随分子供が之を會得することもある。併し大人が  
世の中に幽霊と云ふものは無いと云ふことが分つ  
て居つても、矢張り夜中に墓場を通ると幾らか氣

持が悪いと云ふのと同じことで、子供にそれが分  
つてもまだ氣持の悪いと云ふことが頭に残つて居  
るものでありますからして、矢張り道理を以て其  
子供の怖がるのを直ぐに止めさせて仕舞ふと云ふ  
やうな事は實際には行はれ難いものであります  
から。段々に之を直し之を導くと云ふやうな方法  
を探らなければなりません。そこで此恐れると  
云ふことが極端の個性となりました場合に於ては  
臆病と云ふ性質になつて來ます、が此場合に於て  
は最早恐れると云ふ感情も天然自然の目的に背い  
たものになつて來るのです。臆病と云ふ状態にな  
りますると云ふと、恐れると云ふ感情が天然自然  
に人に與へられて居る所の目的に背いた働きをす  
るやうになるのです、詰り物に恐れると云ふこと  
は禍を未然に防ぐと云ふ目的に適つたものであ  
つて、危きに近付かないやうな有様になるのが即  
ち恐れると云ふことが役に立つのである。詰り危  
いやうな物には早くから恐れて側に寄らないと云  
ふことが恐れ感情の目的であります。それが臆  
病と云ふやうになると云ふと、恐ろしいものでも

實際恐ろしくないものでも其區別が付かないで、唯だもう初めからして之を怖がると云ふやうになつて來るのです。で斯う云ふやうな状態になりまするるのは、幾分かは遺傳的原因がありませう。遺傳的と申しますのは、どう云ふやうに親が考へて見ても、どう云ふやうに保姆が考へて見ても、どう云ふ譯で怖がるものであるか其理由を少しも説明することが出來ぬやうな場合には、其臆病と云ふことが遺傳的に起つたと云ふの外は無いので、詰り説明の付かない場合に於てそれを遺傳に歸着せしむると云ふやうになつて居ります。眞の遺傳的のものでありますと云ふとい、大人になる時迄永く其性質が続いて行くと云ふやうな有様になる。例へば非常に鼠を恐れるとか、非常に猫を恐れるとか、非常に蛇を恐れるとか云ふやうな、さう云ふ特別な物に對して非常に臆病であると云ふやうな性質は、大人になる時迄變らずに續いて行くことがあるのであります。烈しい者になりますると云ふと、若し偶々さう云ふ物に出逢はなければならなくなつて來れば、一時子供が發熱をすると云ふ位

に吃驚することもあるのであります。そこで教育上一番注意すべきのは、子供の取扱ひ方の上に於て天然的には無い所の臆病心と云ふものを養成して仕舞ふやうな場合があるのです。それはどう云ふ所からさう云ふやうな事が起つて來るか云ふと、偶々或る蟲を見ると云ふやうな場合に於て、子供は極く無邪氣な心を以て其蟲に觸らうと云ふやうな事もあるのであります。所が側に居る者がそれは不潔なものであると云ふやうな考からして、子供に觸らせぬ爲にそれは怖いとか厭やな物だとか云ふやうなことを極く大袈裟に言ふのです。それが爲めに子供は其物を大變に嫌ふと云ふ精神を起すものです。さうして子供の想像力が段々に増して來まして、竟には非常に想像を逞うして初めからしてもう其物に觸れることを恐れると云ふやうになつて來るものであるのです。それは則ち其物体に付ての臆病心をば養ひ易いものなのです。それで若し子供が觸つては可けないと云ふやうな物であるならば、成るべく其場所をば黙つて去らしめると云ふやうな方法が最も宜しいのです。概

して子供を取扱ふ所の人は何でも自分の口で饒舌  
 るとか騒ぐとか云ふやうであるが、それは特に慎  
 むべきことである。實際恐るべき物或は怖いやう  
 な物でも、側に附いて居る者が黙つて適當な處置  
 をして仕舞へば、子供はそれを氣が付かずに過ぎ  
 て仕舞ふものであるのです。それを兎角子供を取  
 扱ふ所の人は、自分が手を以て子供に對する適當  
 な處置をするよりも口の方が多く働き過ぎる。そ  
 れが餘程子供の臆病な性質を養ひ易いのですからし  
 て私は口よりは先づ手を動かせと、斯う云ふ事を  
 申上げて置きたいと思ひます。是れは子供の取扱  
 上非無に大切な事でありませす。それから又子供の  
 取扱ひ方が餘りに子供を愛し過ぎまして詰り平生  
 からして子供の心を鍛錬すると云ふことをば意  
 ッて居る。餘り色々の刺戟に逢はせないやうに大  
 事にして置くとか云ふやうなことは、却て子供が何  
 事にも恐れ易い、臆病な心になり易くなる。詰り  
 全く老人の手で育つと云ふ子供でありませすと云ふ  
 と、餘り大事にされ過ぎ、却てそれが爲めに臆病  
 なる所の性質を持ち易いのです、詰り何事にも大

事を取過ぎて、それも危い、是れも危いと云ふや  
 うな事はかり始終言ふて居りませすと、段々に子  
 供の精神が適當なる發達をしないで萎縮して仕舞  
 ふと云ふやうな風になるのです。餘程子供の感情  
 と云ふもの、扱ひ方は六ヶ敷いもので、唯だ一時  
 感情の發達と云ふものが不完全であると云ふばか  
 りで無くて、餘り感情の扱ひ方が下手であると云  
 ふと、感情と云ふものをば全く毀して仕舞ふと云  
 ふやうな虞があるのです。例へば子供が物事に付  
 て恥かしがると云ふ即ち廉恥心、是等は或點から  
 言へば餘り恥かしがつて許り居つては可かぬです  
 けれど、併し一度此廉恥心の取扱ひ方を誤りま  
 すると云ふと、今度は實際恥かしい事に出逢つて  
 も其恥かしいと云ふことを感じなくなるのです。  
 餘り家庭等が嚴格であつて子供に當り方が強くわ  
 りませすと云ふと、所謂圖々しい子供になつて今度  
 恥かしい事に出逢つても耻と云ふ心が起らないよ  
 うになつて仕舞ふのです。感情は傷けられ易いも  
 のである。此恐れると云ふ所の心も恥の感情と同  
 様で傷けられ易いものであるから、餘り何事に對

してでもそれも怖い、是れも怖いと云ふやうにして行く、遂に正しい所の發達が出来ぬで臆病と云ふ極端な性質に陥つて仕舞ふのです。それだからして詰り子供を扱ふのに氣を付けると云ふことは無論大事であるけれども、大人の心で恐ろしい事と思ふてもそれを、直ぐ子供に傳へると云ふやうなことは不得策なる方法と考へて宜いのです。それからして兎角子供を家に詰り置いてさうして他の子供と餘り接近させる事が無いとか、或は他の家庭に餘り連れて行つた事が無いとか云ふやうな有様でありますと云ふと、幾らか子供が臆病と云ふやうな風の有様に陥り易いのです。それは何ぜさう云ふやうな有様に陥るかと云ひますと、子供の適合性と云ふものが餘り發達しなくなる爲めです、適合性と言ひますのは、即ち平生と違つた境遇に出逢つた時に旨く其境遇に適した所の精神の働き方をさせるので、大人が此適合性を能く作つて行くと云ふには、詰り種々の場所に出て場所慣れて來れば其適合性が多く養はれて來るやうになるのです。それと同様で矢張り子供でも唯だ引ッ

込めて許し置く、其適合性が發達しませぬからして、そこで新しい違つた場合に出逢へば、幾らか自分で恐れ的心を起し易くなつて來るのです。さう云ふ點から申しますと、矢張り子供の會合子供の集りと云ふやうなものを時々催すのが宜いのです或は又子供の教育に能く行届いて居る家に子供を連れて行くと云ふことも餘程宜い事です、詰り或家庭と或家庭とが御互ひに相談をして甲の家から乙の家を訪ね、乙の家から甲の家を訪ねると云ふやうに、子供の教育と云ふことの目的を以て訪問すると云ふことがあつて宜からうと思ひます。普通所謂訪問の種類と云ふものの中に教育訪問と云ふものがありませぬけれども、通例謂つて居る訪問の種類の中に、子供を教育する目的を以て訪問すると云ふことが一つ出來ても宜からうと思ふのです。是れは殊に教育者の間には行はれ易い事でありませぬからして先づ教育者自身が社會の普通の人に卒先してさう云ふやうな方法を採るとは、大變に面白い事柄であると思つて居るのであります。